



空き家利活用コンテスト2023 優秀賞



非住宅部門

事例 09

狐塚亭 -こづかてい-

長期滞在で農業と暮らしを体験できる
町と若者をつなぐゲストハウス



スケルトン階段と窓からの採光によって明るく抜け感のある階段下は、洗面スペースとして有効活用。家に残されていた古い和箆筒も大切に使っている。

2階の宿泊室へと続く階段とホール。ろくろ加工された木製の柵が建築された昭和40年代当時の暮らしを想起させ、どこか懐かしい気持ちになる。

かねてから、移住者や就農者を増やす取り組みに関心を抱き、「現地暮らしを長期体験してからマッチングを図る必要がある」と考えていた受賞者。婚約者の新規就農により鳥取市から琴浦町へ移住したのを期に、若者が暮らしながら農業や町の風土を体験できるゲストハウスづくりを開始。町の「空き家ナビ」で、赤碕駅から徒歩約3分の好立地にあるこの物件を見つけた。

既存の間取りを生かしつつ、特に力を入れたのは、築50年ほどになる家の掃除。綿壁を全てはがすことからスタート。表面が黒くベタついていた木の柱は、アルカリ電解水でひたすら水拭きした。

100時間以上を費やして掃除した後は、壁の塗装、床張りなどを丁寧にDIYしてコスト縮減。限られた予算の中でも壁紙等のデザインにはこだわり、清潔でモダンな空間に仕上げた。トイレの水洗化と浴室の改修はプロに依頼。必要不可欠なポイントに貴重な資金を投入し、気持ちよく利用できるよう整えた。

町に数少ない若者起業事例のロールモデルになりたいという。就農者の増加はもちろん、町内外の人々をつなぐ場として活用してもらおうべく張り切っている。





1階のダイニングキッチン。日中は陽光が壁や床の白色に反射して明るく、爽やかな気分で過ごせる空間だ。懸命に磨き上げた木の柱がいいアクセントになっている。窓際の小さな寛ぎスペースは、食後にゆったりと一息つくことができそう。





2階にある2室の宿泊室は、壁紙で部屋ごとの個性を演出。南側の1室には広縁があり、デスクとチェアを置いてワークスペースに整えた。既存の間取りを活かし、最小限の改修で最大の効果が出るよう工夫されている。

[DATA]



- 【所在地】東伯郡琴浦町赤碕1920-75
- 【構造】木造2階建て 【築年月】昭和49年
- 【改修後の用途】管理人常駐型簡易宿所(ゲストハウス)
- 【間取り構成】ダイニングキッチン、個室2室、管理人室、浴室、トイレ
- 【改修期間】2022年11月～2023年1月
- 【改修費用】約300万円
- 【設計者】hac. design office 【施工者】東伯ガス産業株式会社